

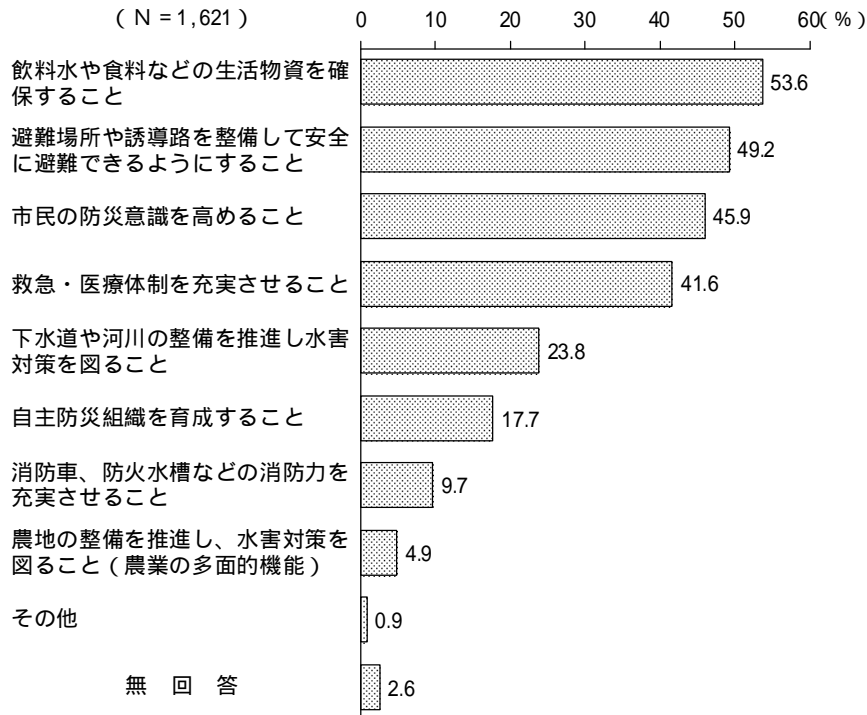
## 6 . 地域社会と市民生活

### 6 - 1 防災対策

「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」が53.6%

問32 あなたは、防災対策として、どのような施策が必要だと思えますか。次の中から3つ以内で選んでください。( は3つ以内)

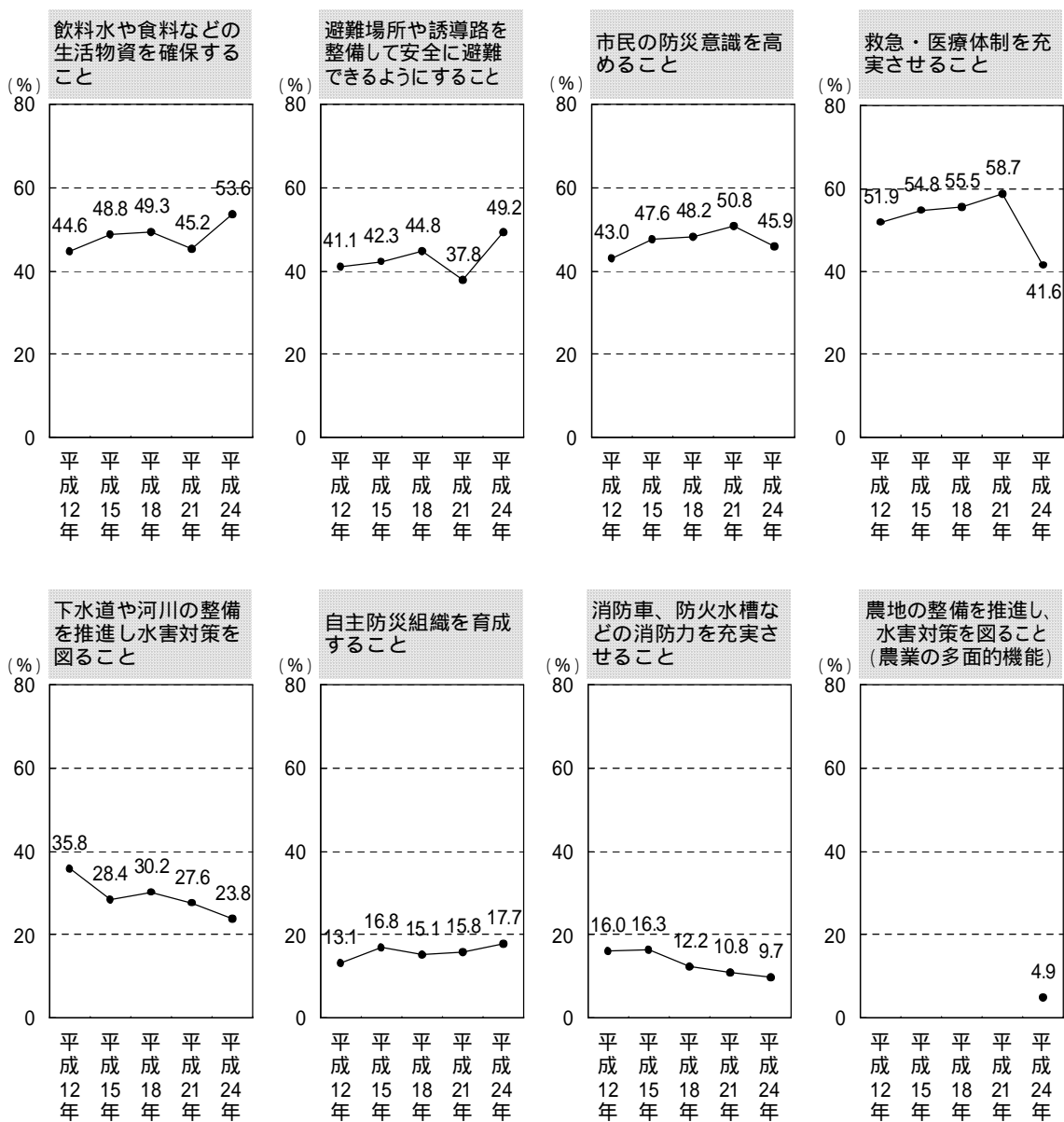
図6 - 1 - 1



防災対策として必要な施策をたずねたところ、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」(53.6%)が最も多く、50%を超えている。以下、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」(49.2%)、「市民の防災意識を高めること」(45.9%)、「救急・医療体制を充実させること」(41.6%)、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」(23.8%)などの順となっている。(図6 - 1 - 1)

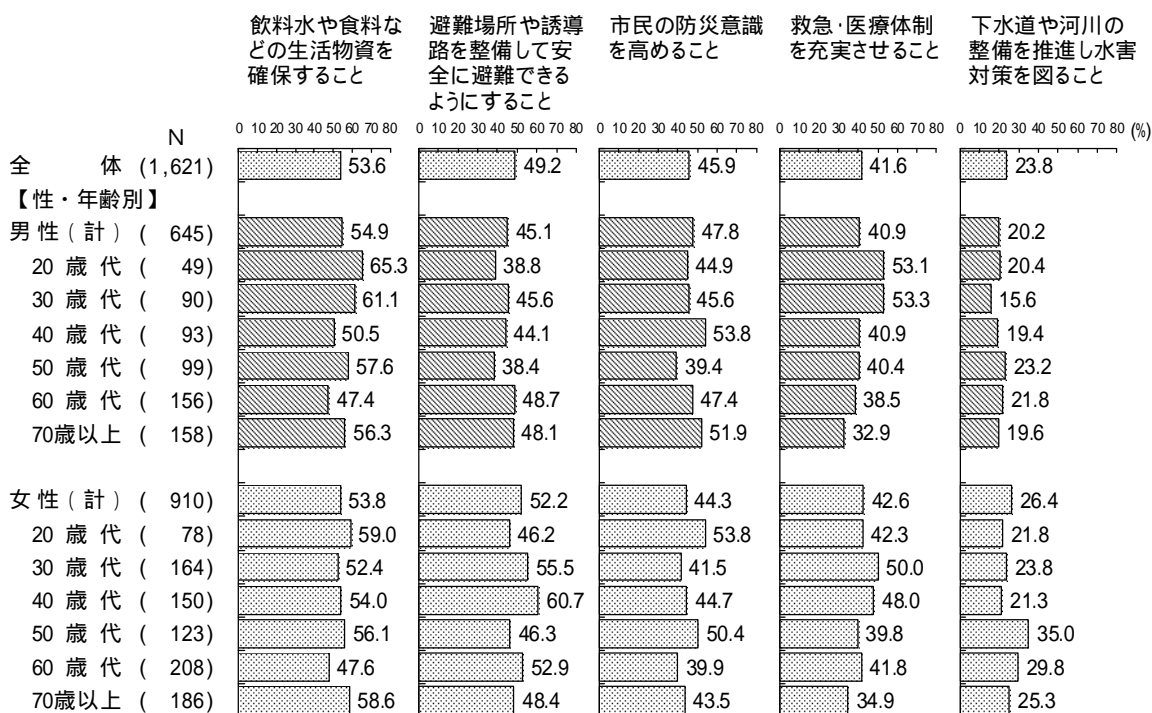
時系列でみると、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は前回調査と比べて11.4ポイント、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」は前回調査と比べて8.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「救急・医療体制を充実させること」は前回調査と比べて17.1ポイント、「市民の防災意識を高めること」は前回調査と比べて4.9ポイント、それぞれ減少している。(図6-1-2)

図6-1-2 時系列 防災対策



上位5項目を性・年齢別にみると、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は女性40歳代が60%を超えて多くなっている。「救急・医療体制を充実させること」は男性20歳代と30歳代が50%を超えて多くなっている。「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」は女性50歳代が30%半ばで多くなっている。(図6-1-3)

図6-1-3 性・年齢別 防災対策

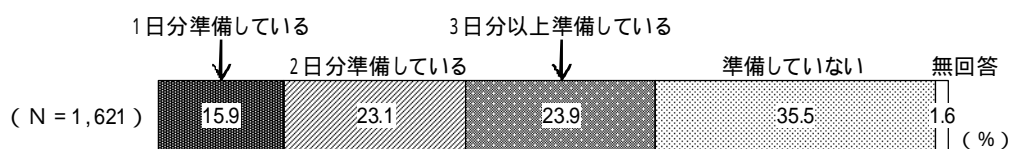


## 6 - 2 水・食料の備蓄量

「3日分以上準備している」は23.9%

問33 東日本大震災以降、個人で3日分以上の水や食料の備蓄が必要といわれておりますが、あなたは何日分準備していますか。 (は1つ)

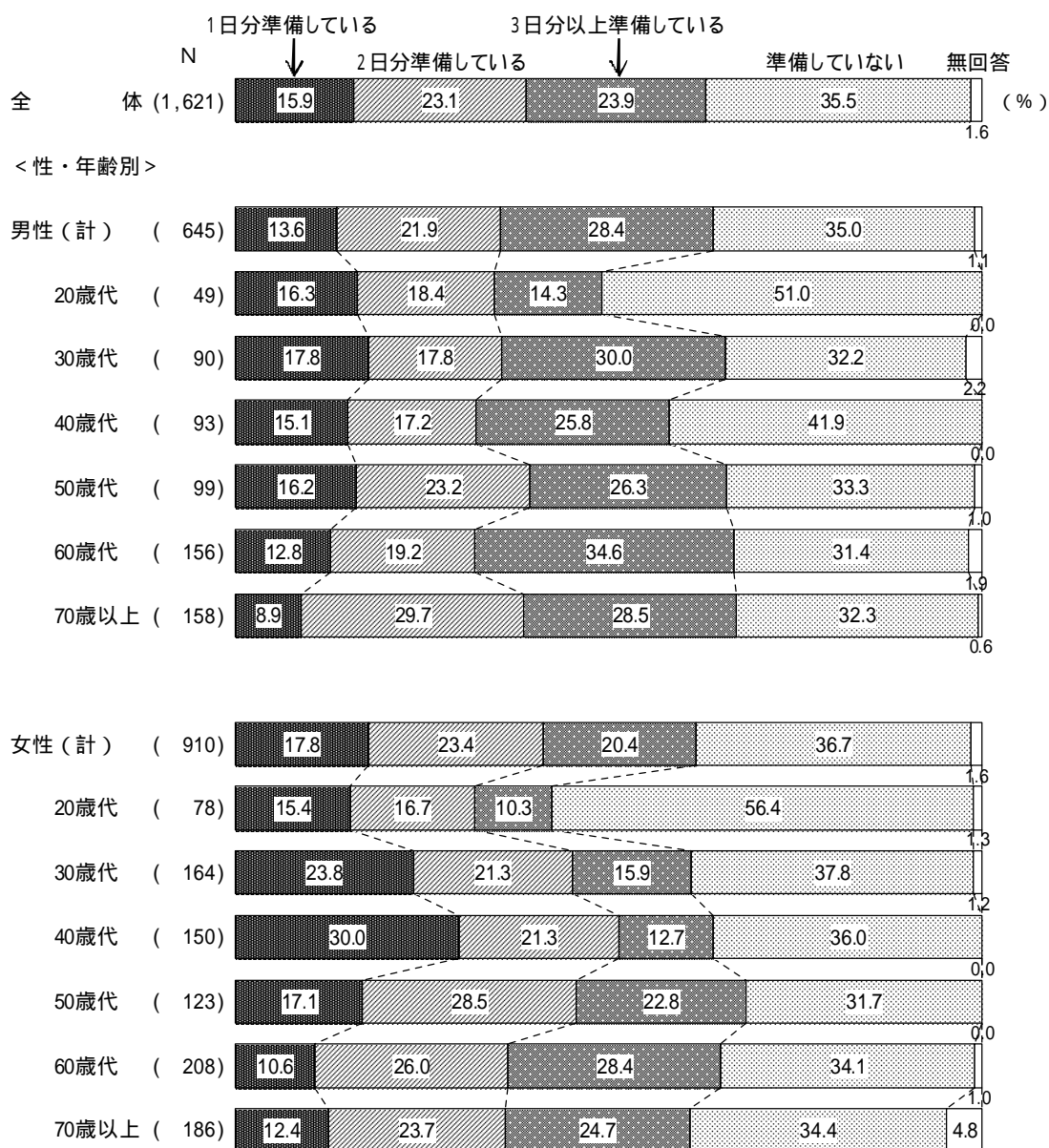
図6 - 2 - 1



水・食料の備蓄量をたずねたところ、「3日分以上準備している」(23.9%)と「2日分準備している」(23.1%)がともに20%を超えており、「1日分準備している」(15.9%)が10%半ばとなっている。また、「準備していない」(35.5%)は30%半ばとなっている。(図6 - 2 - 1)

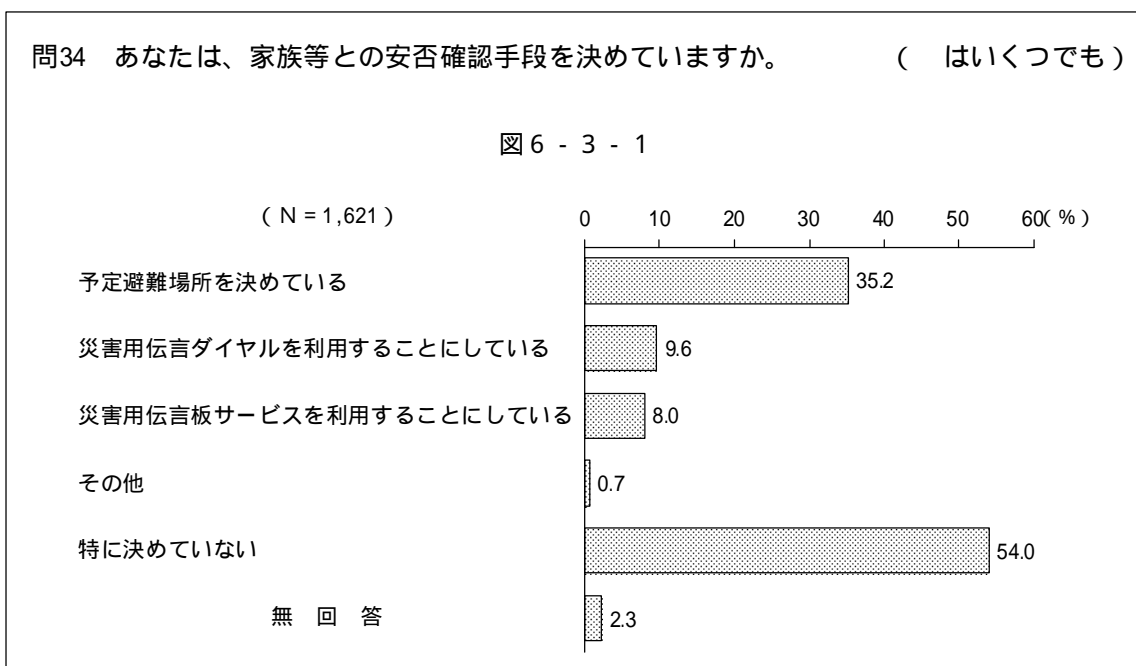
性・年齢別にみると、「3日分以上準備している」は男性60歳代が30%半ばで多くなっているが、男性20歳代と女性の20歳代から40歳代の年代では10%台にとどまっている。「準備していない」は女性20歳代が50%半ば、男性20歳代が50%を超えて多くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 性・年齢別 水・食料の備蓄量



### 6 - 3 家族等との安否確認手段

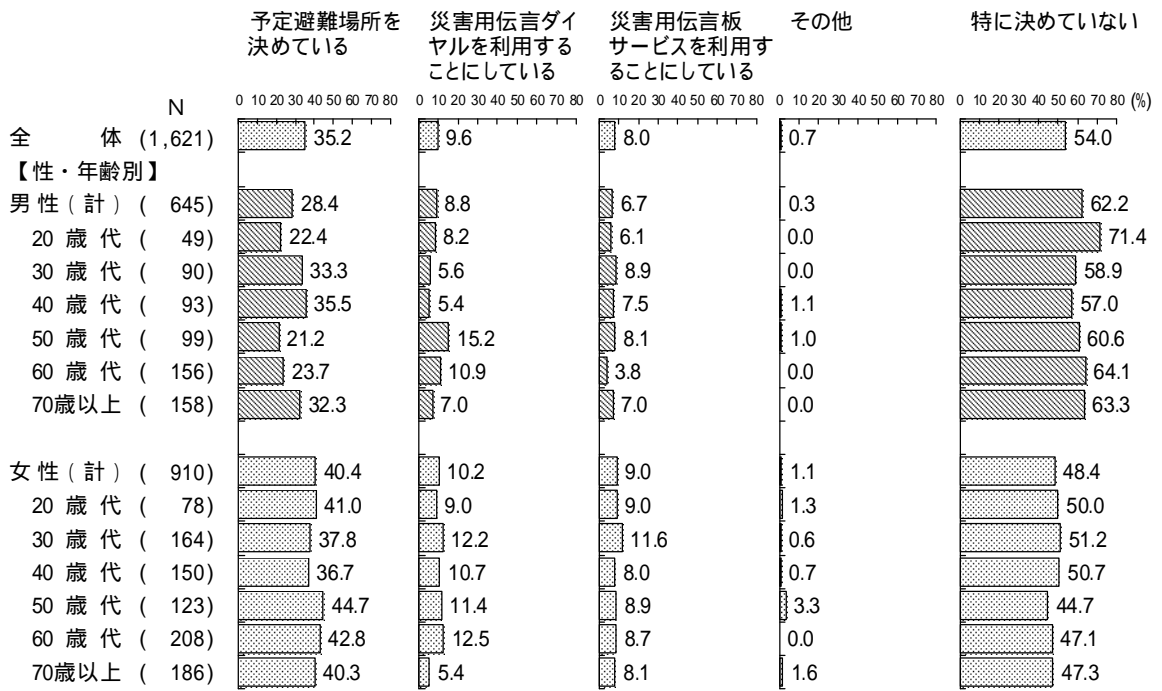
「予定避難場所を決めている」が35.2%、「特に決めていない」が54.0%



家族等との安否確認手段を決めているかたずねたところ、「特に決めていない」(54.0%)が最も多く、50%半ばとなっている。以下、「予定避難場所を決めている」(35.2%)、「災害用伝言ダイヤルを利用することになっている」(9.6%)、「災害用伝言板サービスを利用することになっている」(8.0%)の順となっている。(図6 - 3 - 1)

性・年齢別にみると、「予定避難場所を決めている」は女性（40.4%）が男性（28.4%）より12.0ポイント高くなっており、特に女性50歳代が40%半ばとなっている。「特に決めていない」は男性（62.2%）が女性（48.4%）より13.8ポイント高くなっており、特に男性20歳代が70%を超えて多くなっている。（図6 - 3 - 2）

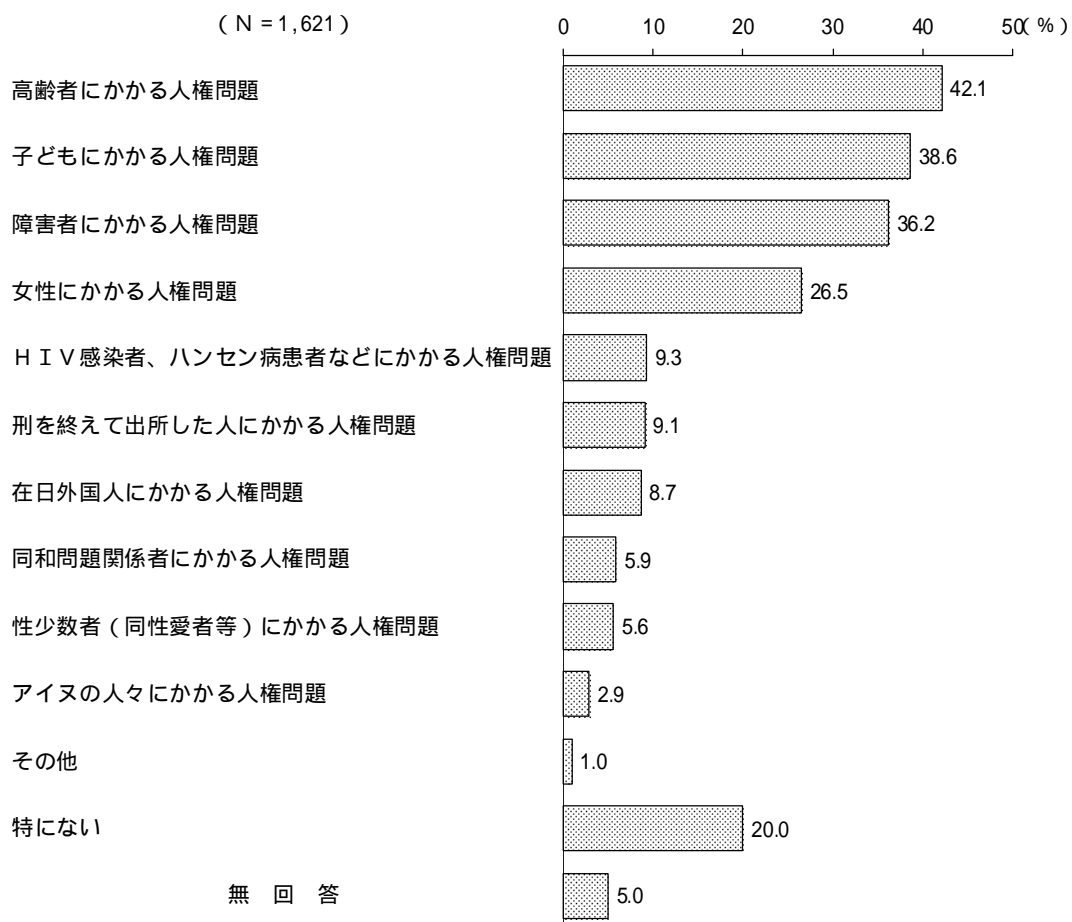
図6 - 3 - 2 性・年齢別 家族等との安否確認手段



6 - 4 関心のある人権問題  
 「高齢者にかかる人権問題」が42.1%

問35 現在、日本の社会には基本的人権に関わる問題がいくつかありますが、あなたが関心のあるものはどのようなものですか。 (はいくつでも)

図6 - 4 - 1



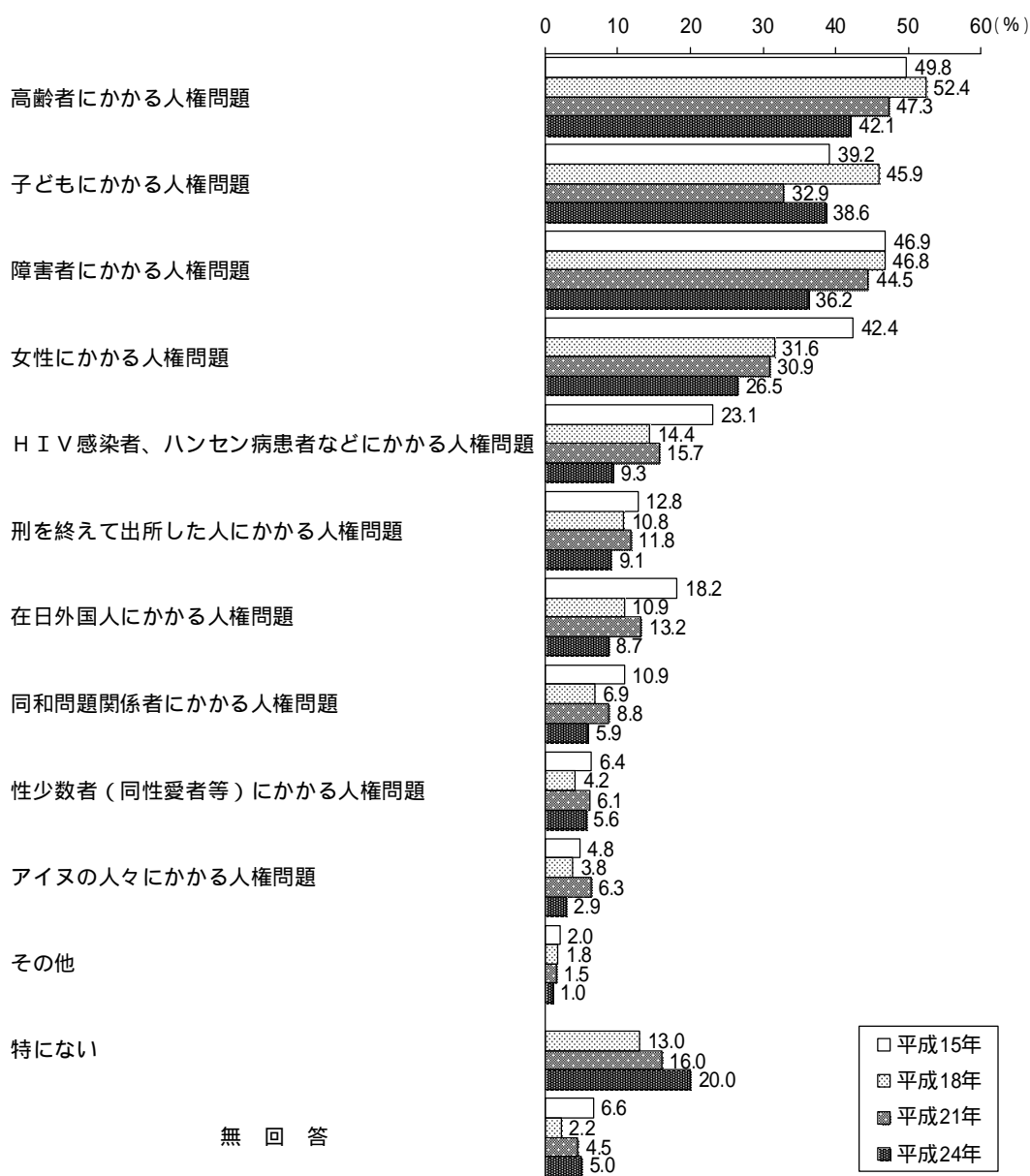
関心のある人権問題をたずねたところ、「高齢者にかかる人権問題」(42.1%)が最も多く、40%を超えている。以下、「子どもにかかる人権問題」(38.6%)、「障害者にかかる人権問題」(36.2%)、「女性にかかる人権問題」(26.5%)の順となっている。また、「特にない」は20.0%となっている。

(図6 - 4 - 1)



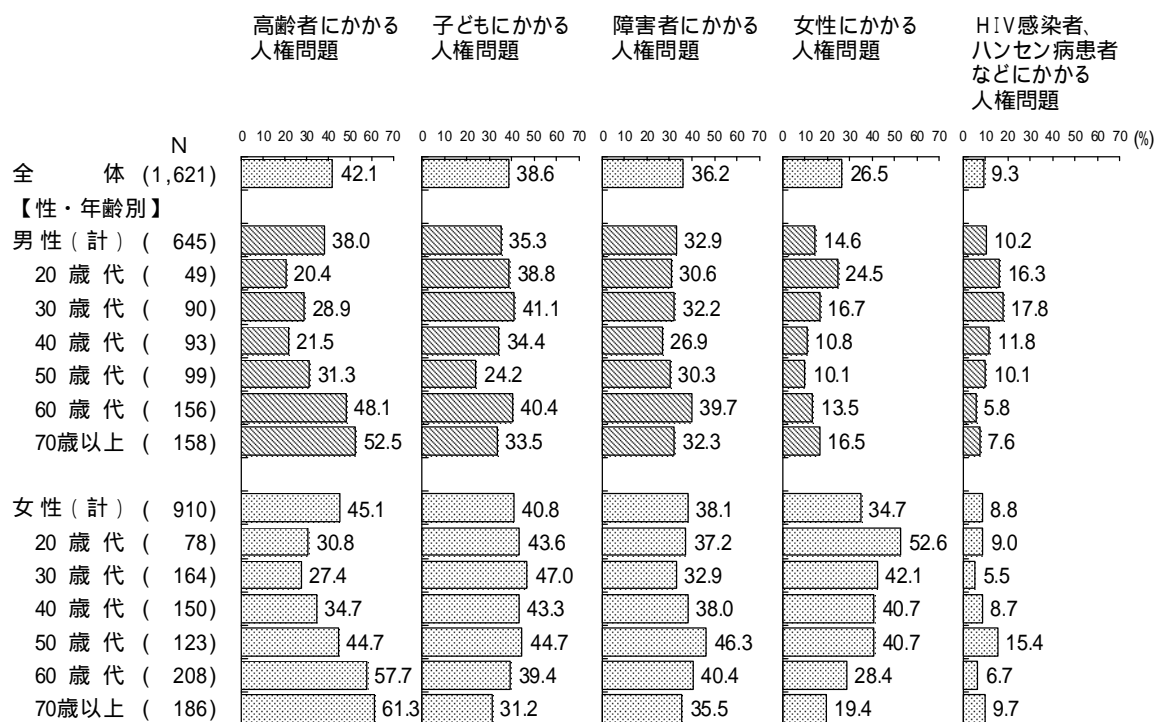
時系列でみると、前回調査と比べて、「障害者にかかる人権問題」は8.3ポイント、「H I V感染者、ハンセン病患者などにかかる人権問題」は6.4ポイント、「高齢者にかかる人権問題」は5.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「子どもにかかる人権問題」は前回調査と比べて5.7ポイント増加している。また、「特にない」は前回調査と比べて4.0ポイント増加している。(図6-4-2)

図6-4-2 時系列 関心のある人権問題



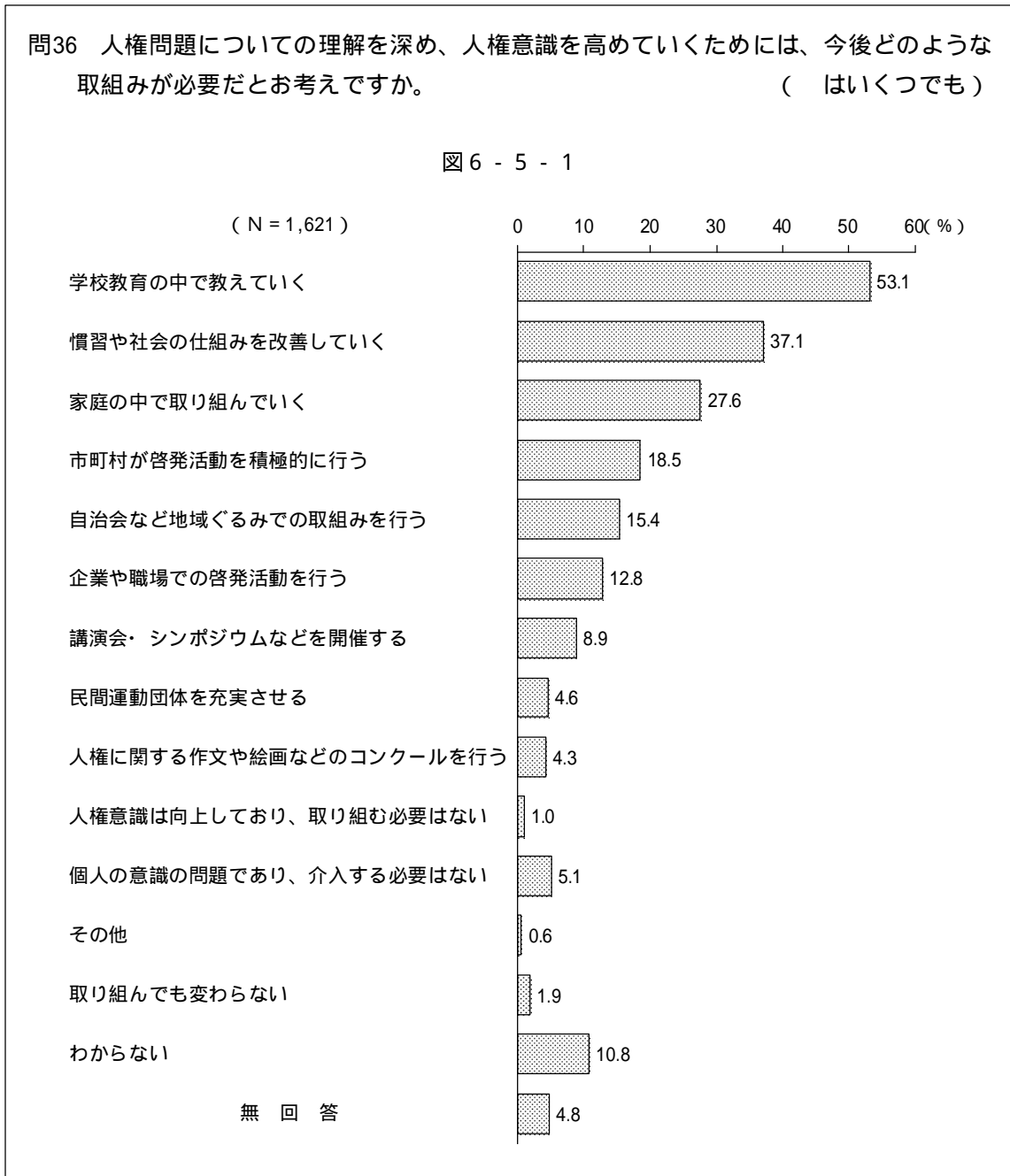
上位5項目を性・年齢別にみると、「高齢者にかかる人権問題」は男女ともにおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性70歳以上が60%を超えている。「障害者にかかる人権問題」は女性50歳代が40%半ばで多くなっている。「女性にかかる人権問題」は女性（34.7%）が男性（14.6%）より20.1ポイント高く、特に女性20歳代が52.6%を超えている。（図6 - 4 - 3）

図6 - 4 - 3 性・年齢別 関心のある人権問題



## 6 - 5 人権意識を高めていくために必要な取組

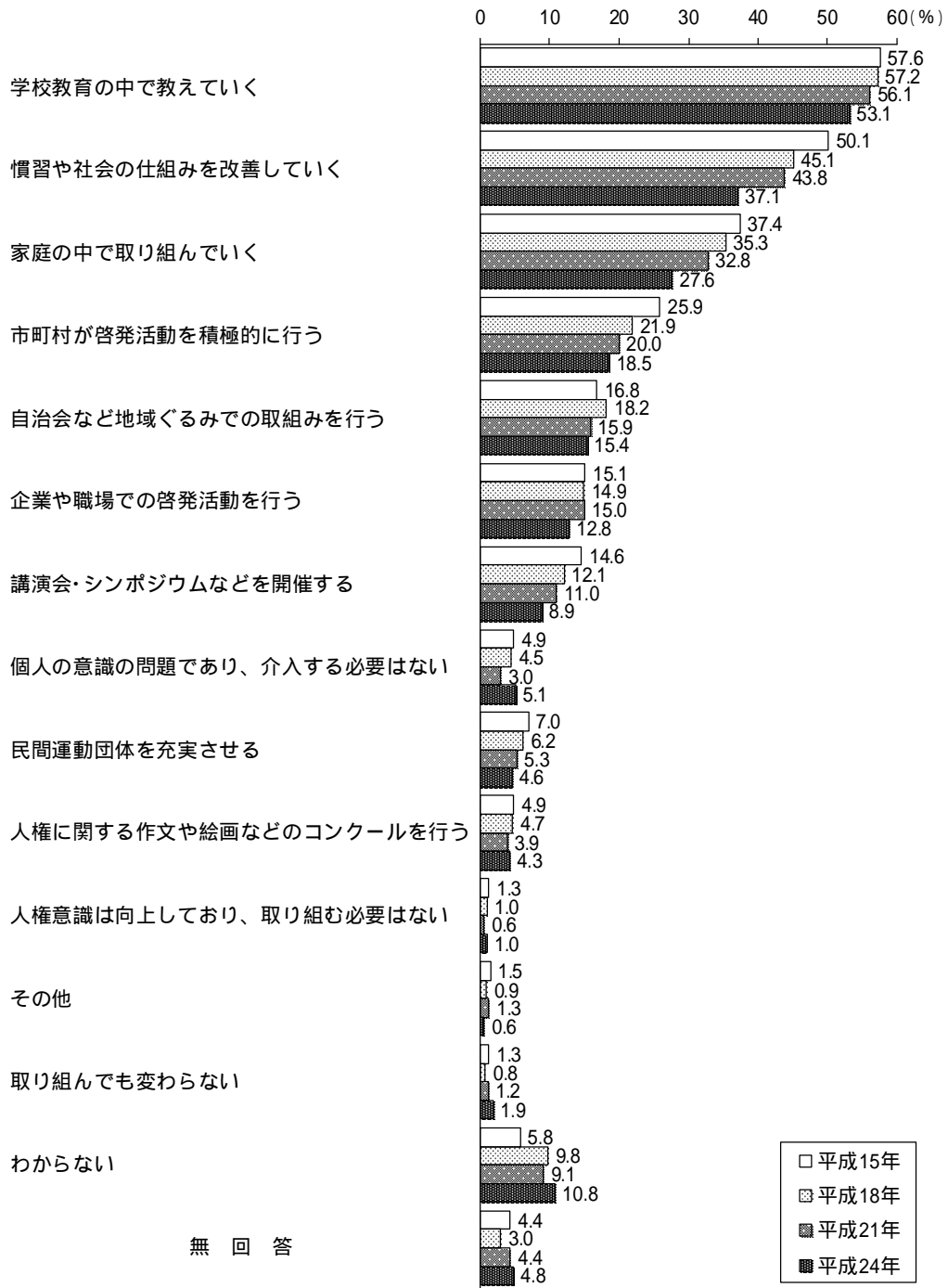
「学校教育の中で教えていく」が53.1%



人権意識を高めていくために必要な取り組みをたずねたところ、「学校教育の中で教えていく」(53.1%)が最も多く、50%を超えている。以下、「慣習や社会の仕組みを改善していく」(37.1%)、「家庭の中で取り組んでいく」(27.6%)、「市町村が啓発活動を積極的に行う」(18.5%)、「自治会など地域ぐるみでの取組を行う」(15.4%)などの順となっている。(図 6 - 5 - 1)

時系列でみると、上位4項目については、順位の変動はないがいずれも減少傾向となっている。  
 (図6-5-2)

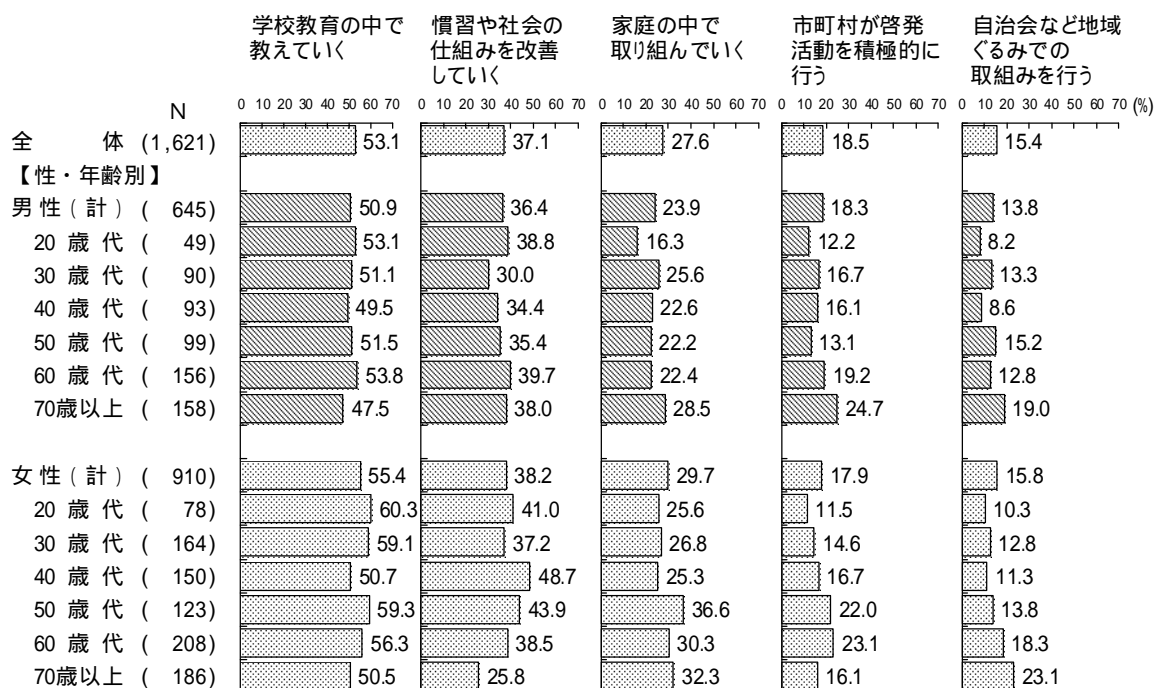
図6-5-2 時系列 人権意識を上げていくために必要な取組



上位5項目を性・年齢別にみると、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は女性40歳代が50%近くで多くなっている。「家庭の中で取り組んでいく」は女性50歳代が30%半ばで多くなっている。

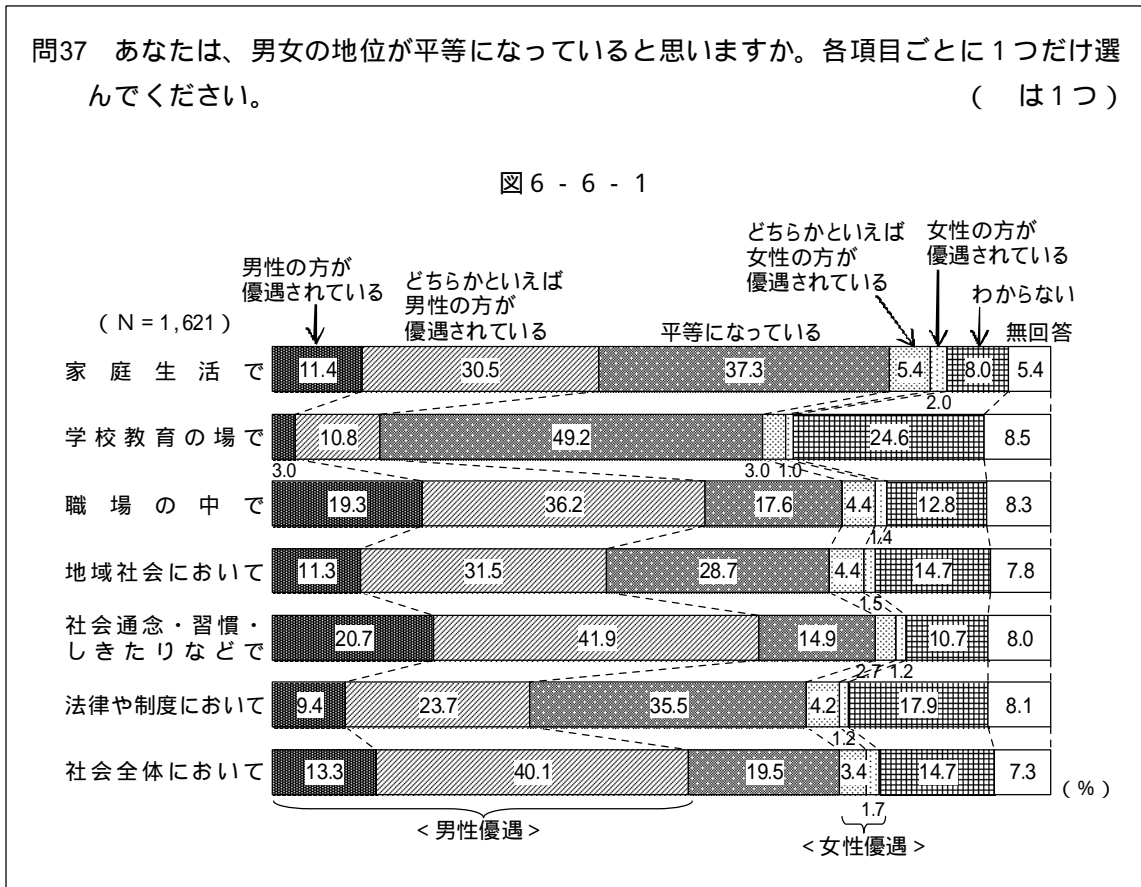
(図6-5-3)

図6-5-3 性・年齢別 人権意識を高めるために必要な取組



## 6 - 6 男女平等に関する意識

「平等になっている」は『学校教育の場で』が最も多く49.2%



男女平等に関する意識をたずねたところ、「平等になっている」は『学校教育の場で』(49.2%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、『家庭生活上』(37.3%)、『法律や制度において』(35.5%)などの順となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた、<男性優遇>は、『社会通念・習慣・しきたりなどで』(62.6%)が最も多く、60%を超えている。以下、『職場の中で』(55.5%)、『社会全体において』(53.4%)などの順となっている。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた、<女性優遇>は、すべての項目で10%未満となっている。(図6-6-1)

時系列でみると、『家庭生活で』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて3.2ポイント減少している。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」が50%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。

『職場の中で』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて5.4ポイント減少している。

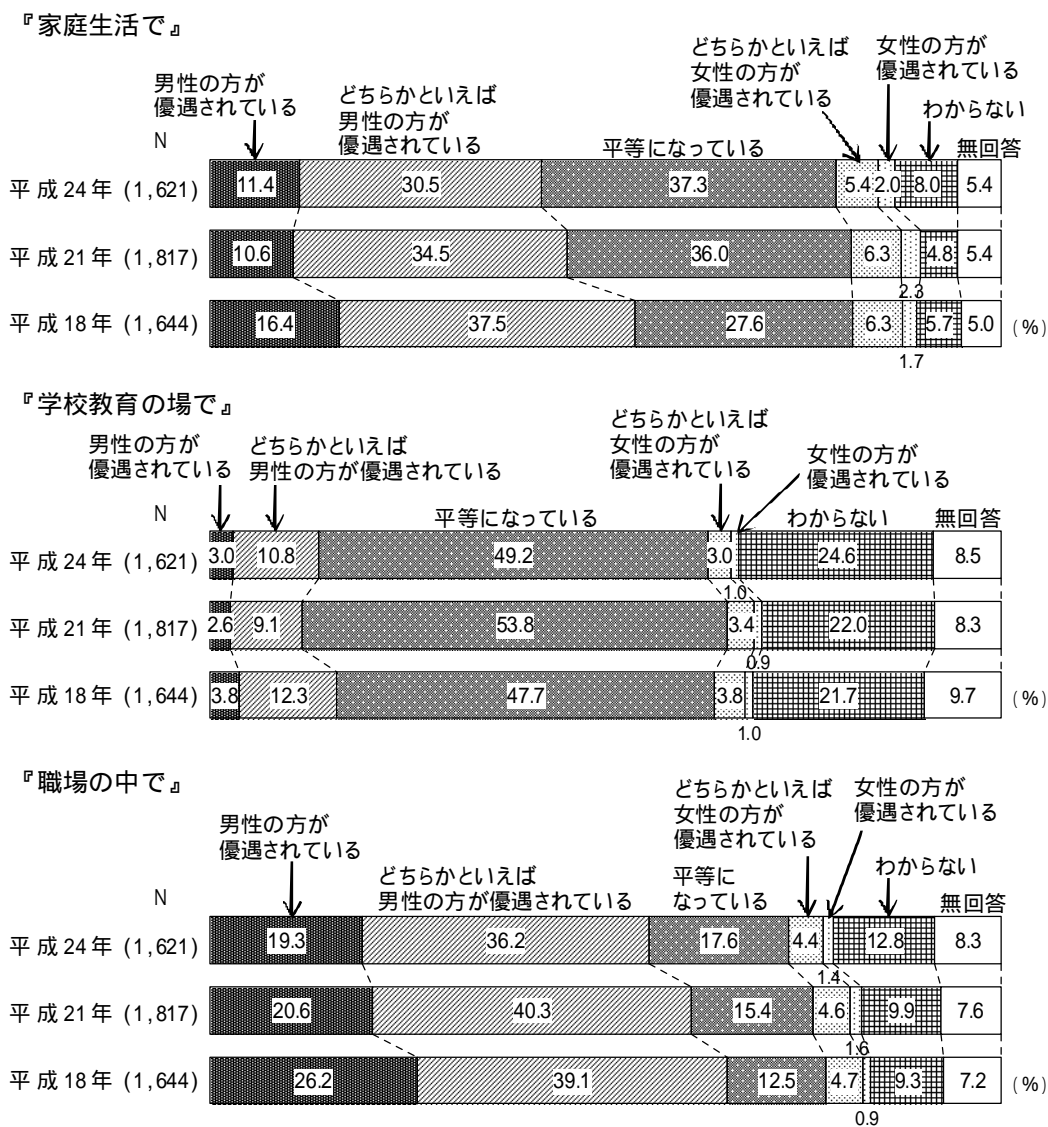
『地域社会において』では、＜男性優遇＞がやや減少傾向にあり、前回調査と比べて1.3ポイント減少している。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて3.3ポイント減少している。

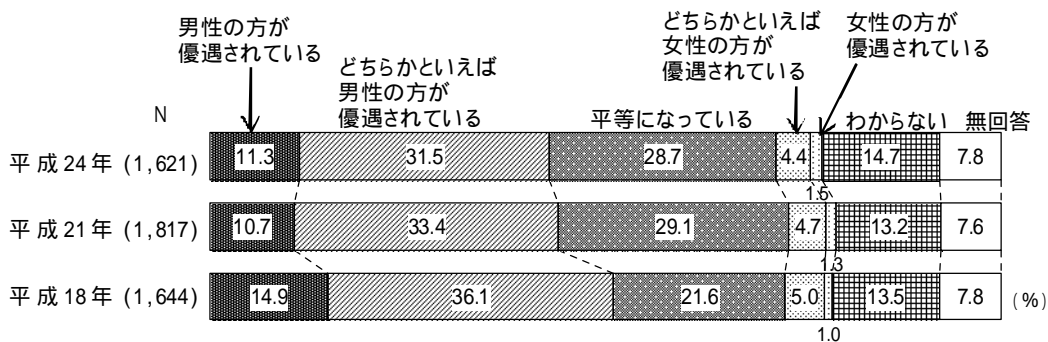
『法律や制度において』では、＜男性優遇＞がやや減少傾向にあり、前回調査と比べて1.8ポイント減少している。

『社会全体において』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて4.6ポイント減少している。(図6-6-2)

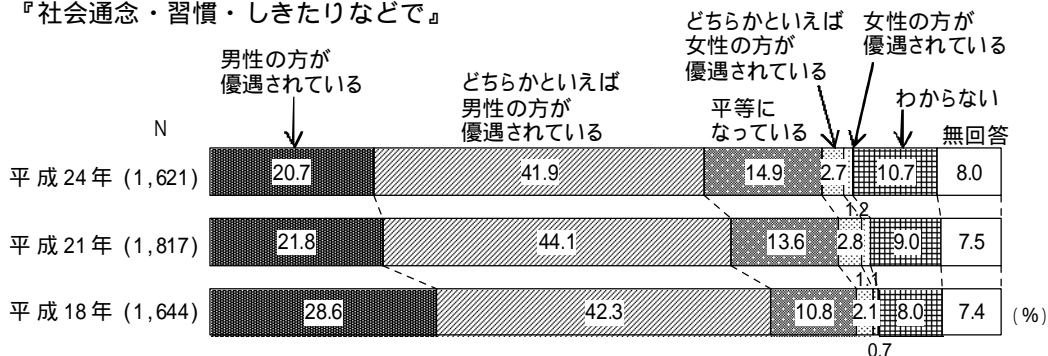
図6-6-2 時系列 男女平等に関する意識



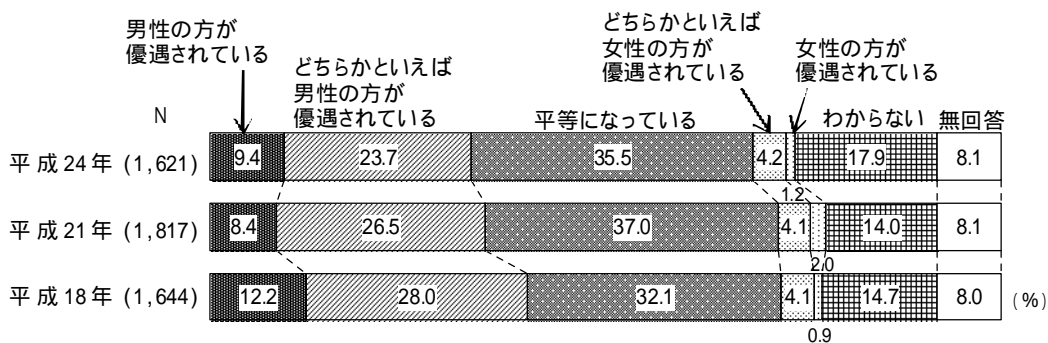
『地域社会において』



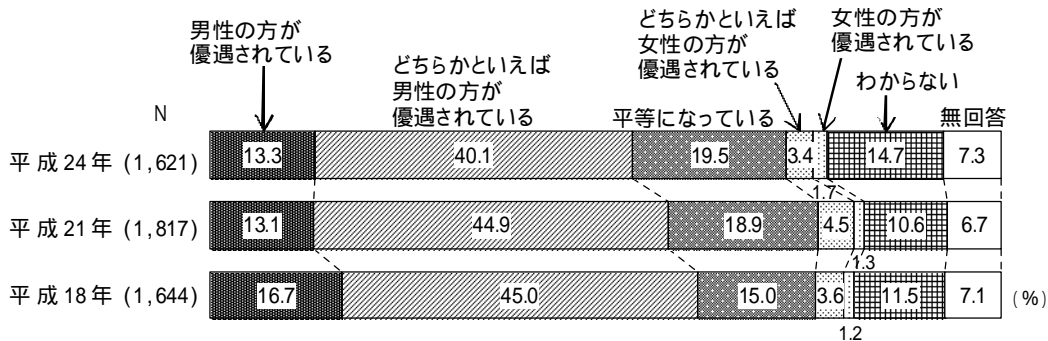
『社会通念・習慣・しきたりなどで』



『法律や制度において』



『社会全体において』





性・年齢別にみると、『家庭生活で』では、＜男性優遇＞は女性（48.4％）が男性（32.3％）より16.1ポイント高く、特に女性40歳代が60％を超えて多くなっている。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」は男性20歳代と女性50歳代が60％を超えて多くなっている。＜男性優遇＞は女性20歳代が20％を超えている。

『職場の中で』では、＜男性優遇＞は女性（60.4％）が男性（49.6％）より10.8ポイント高く、特に女性30歳代が70％を超えて多くなっている。

『地域社会において』では、＜男性優遇＞は女性（51.6％）が男性（30.7％）より20.9ポイント高く、特に女性40歳代が60％を超えて多くなっている。

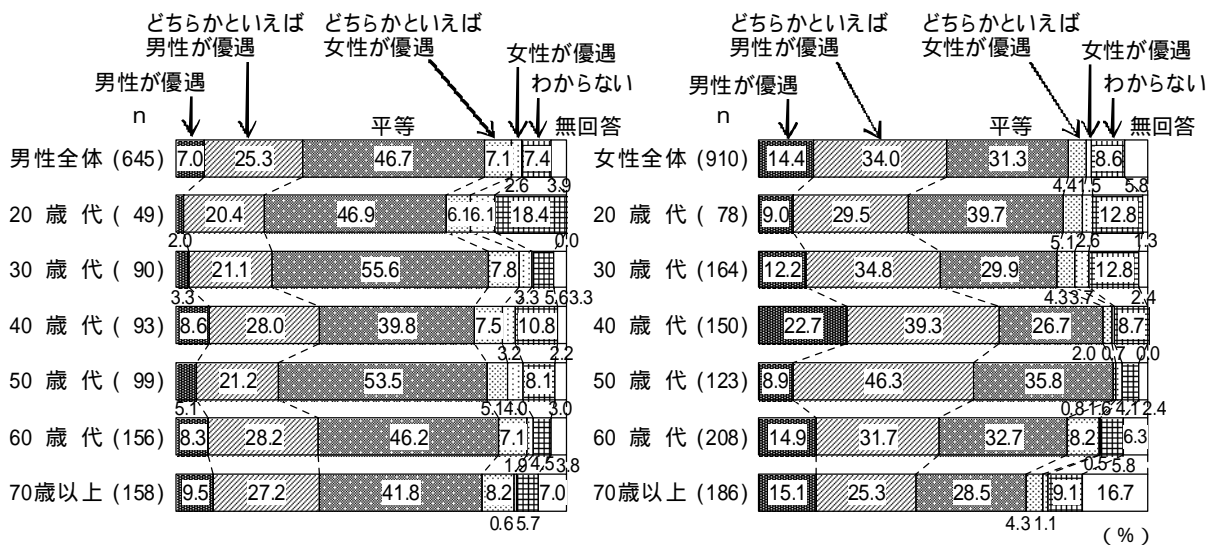
『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、＜男性優遇＞は女性（67.8％）が男性（55.7％）より12.1ポイント高く、特に女性40歳代が80％近くで多くなっている。

『法律や制度において』では、＜男性優遇＞は女性（39.6％）が男性（23.6％）より16.0ポイント高く、特に女性30歳代が50％近くで多くなっている。

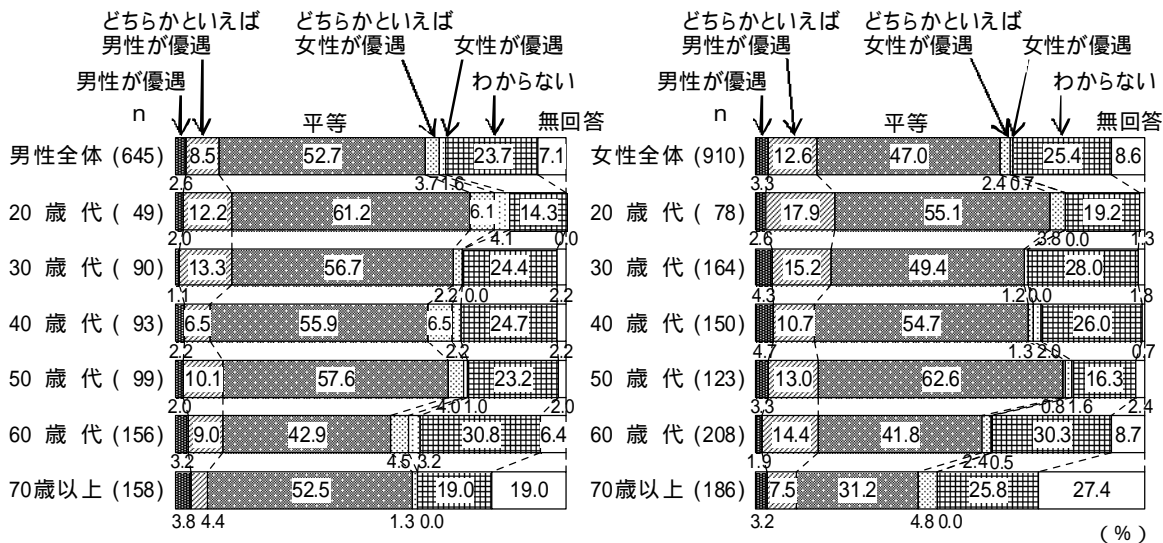
『社会全体において』では、＜男性優遇＞は女性（59.7％）が男性（44.8％）より14.9ポイント高く、特に女性40歳代が70％を超えて多くなっている。（図6-6-3）

図6-6-3 性・年齢別 男女平等に関する意識

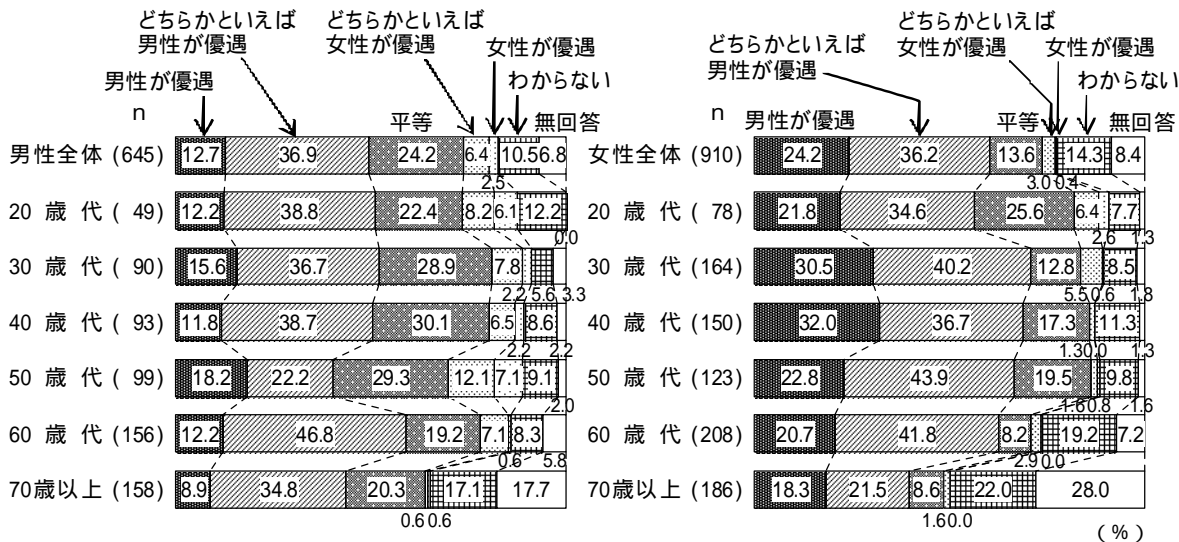
『家庭生活で』



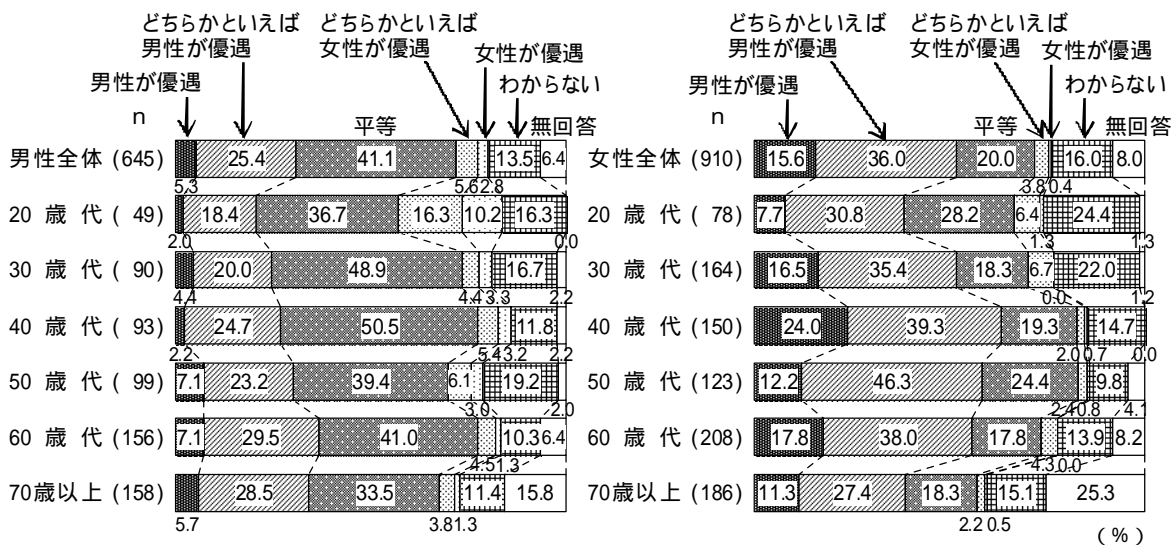
『学校教育の場で』



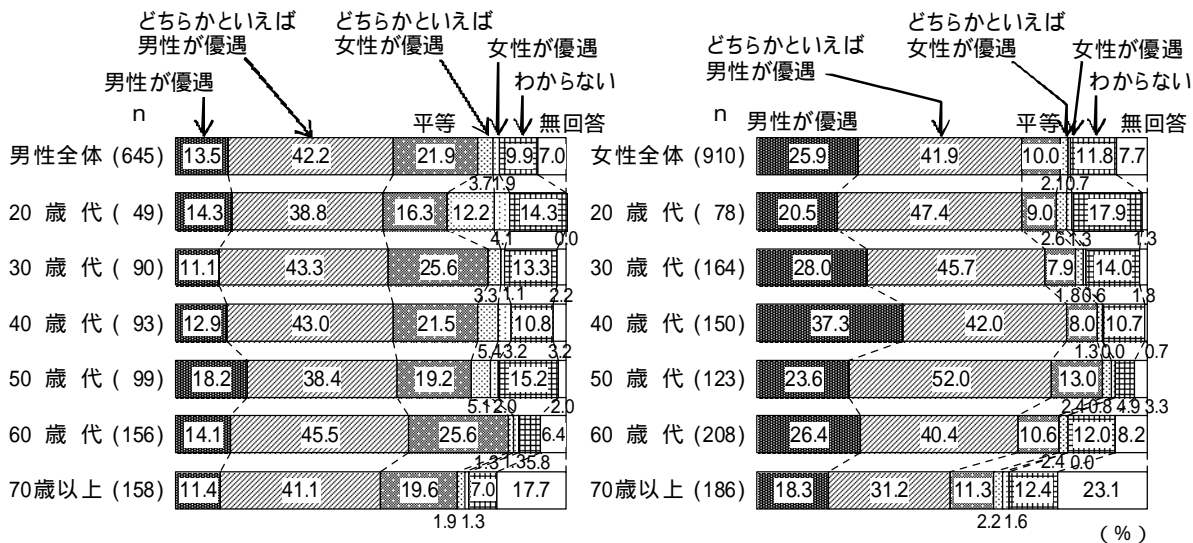
『職場の中で』



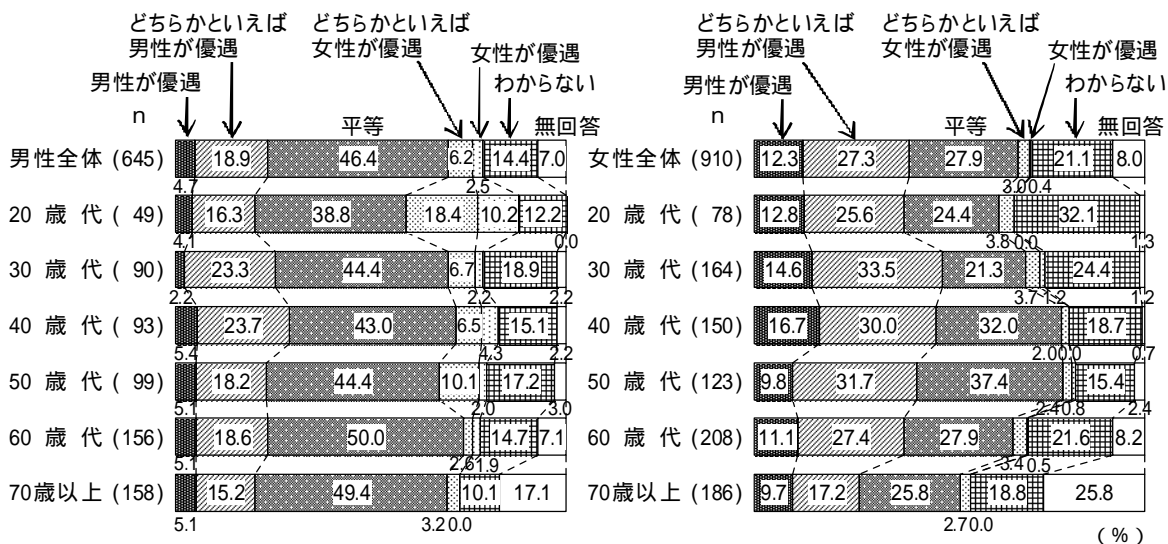
『地域社会において』



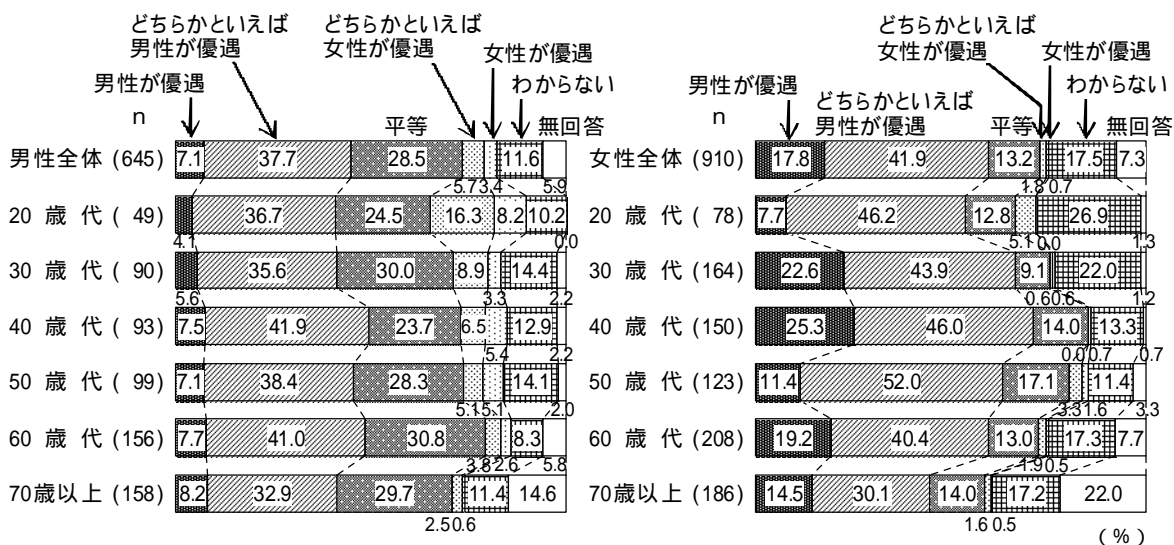
『社会通念・習慣・しきたりなどで』



『法律や制度において』



『社会全体において』



「男は仕事、女は家庭」という考え方(問38・149ページ参照)別にみると、『家庭生活で』では、考え方の違いによる大きな傾向の違いはみられない。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」は、“そうは思わない”(54.5%)が“そう思う”(44.3%)より10.2ポイント高くなっている。

『職場の中で』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(59.7%)が“そう思う”(50.0%)より9.7ポイント高くなっている。

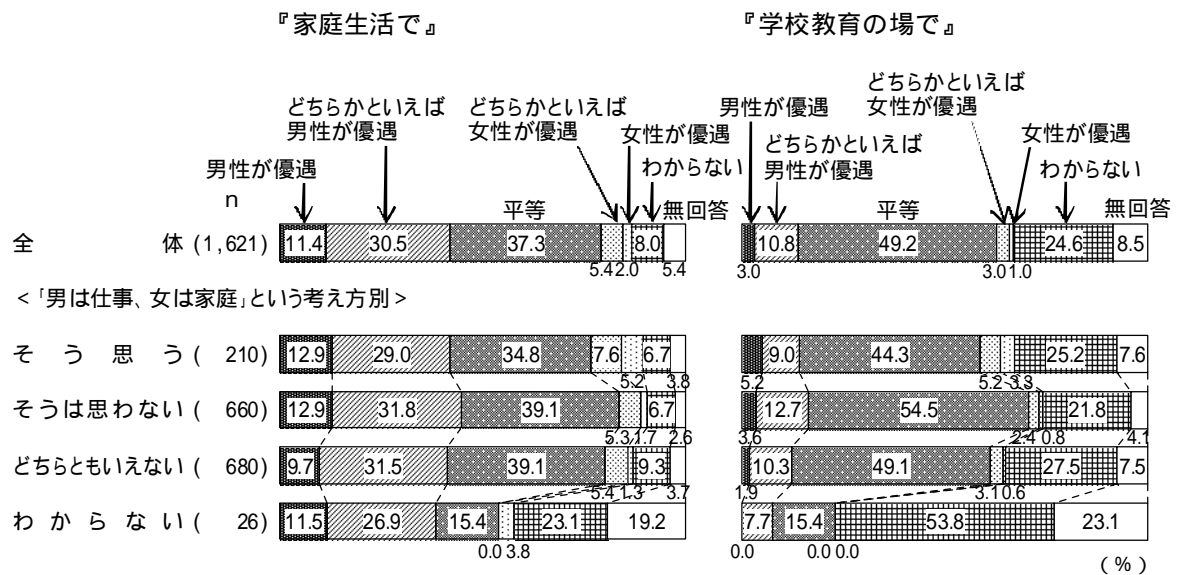
『地域社会において』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(49.7%)が“そう思う”(31.5%)より18.2ポイント高くなっている。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(70.3%)が“そう思う”(54.7%)より15.6ポイント高くなっている。

『法律や制度において』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(38.2%)が“そう思う”(30.0%)より8.2ポイント高くなっている。

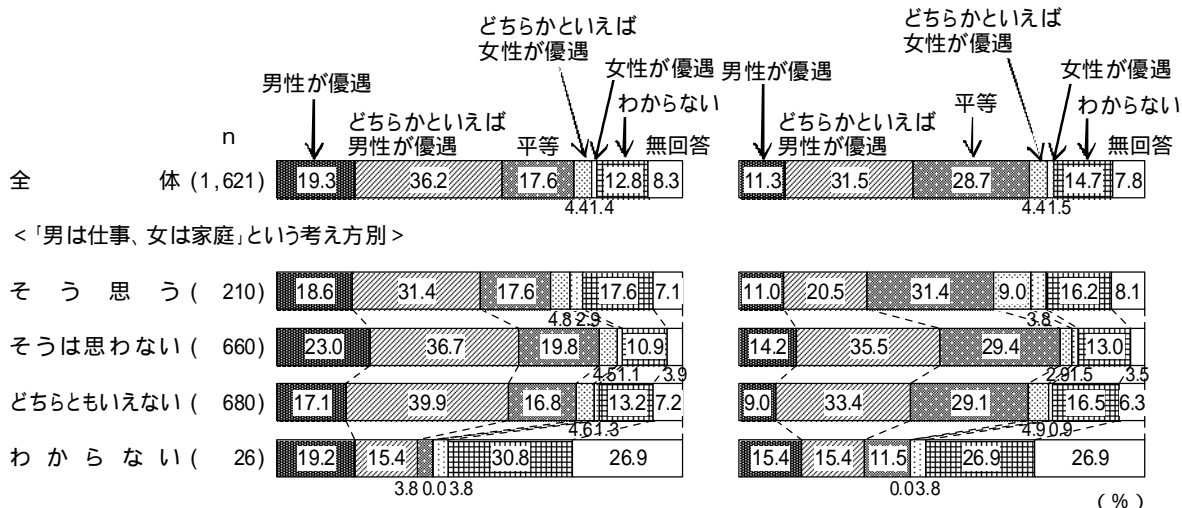
『社会全体において』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(60.9%)が“そう思う”(44.8%)より16.1ポイント高くなっている。(図6-6-4)

図6-6-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方別 男女平等に関する意識



『職場の中で』

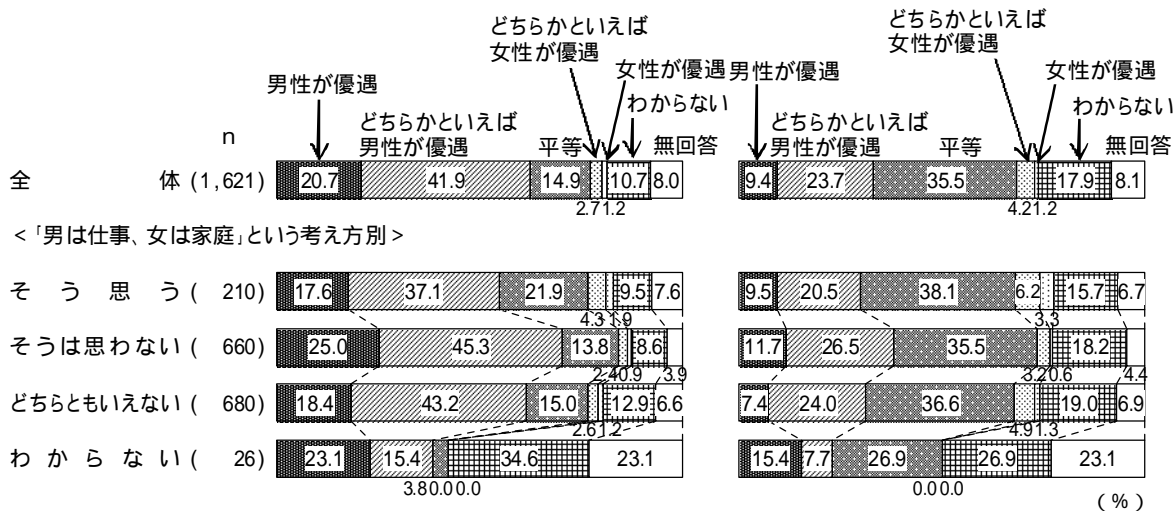
『地域社会において』



<「男は仕事、女は家庭」という考え方別>

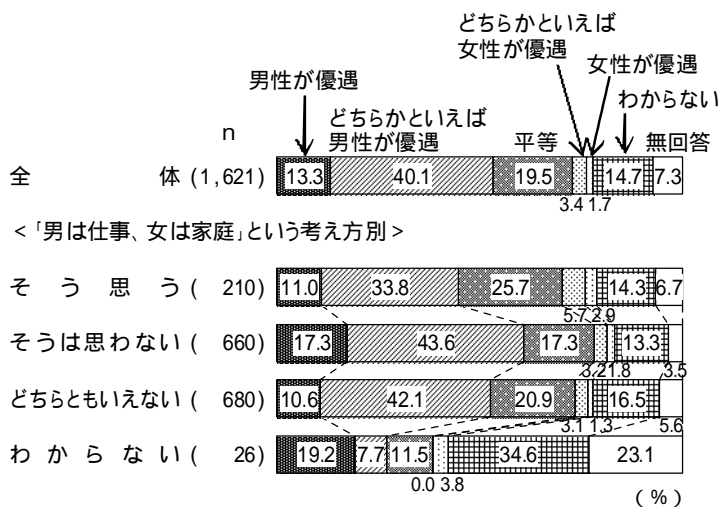
『社会通念・習慣・しきたりなどで』

『法律や制度において』



<「男は仕事、女は家庭」という考え方別>

『社会全体において』

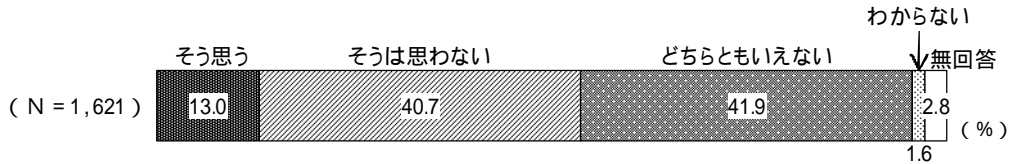


<「男は仕事、女は家庭」という考え方別>

6 - 7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について  
 「どちらともいえない」が41.9%、「そうは思わない」が40.7%

問38 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。( は1つ)

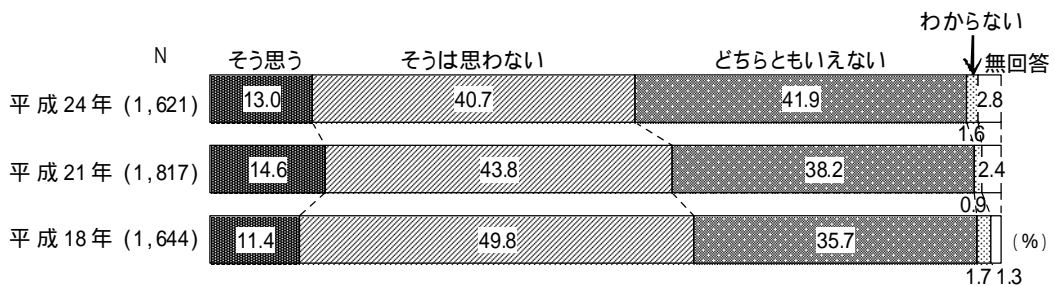
図6 - 7 - 1



「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねたところ、「どちらともいえない」(41.9%)と「そうは思わない」(40.7%)がともに40%を超えている。「そう思う」(13.0%)は10%を超えている。(図6 - 7 - 1)

時系列でみると、「どちらともいえない」は増加傾向にあり、前回調査と比べて3.7ポイント増加している。一方、「そうは思わない」は減少傾向にあり、前回調査と比べて3.1ポイント減少している。(図6 - 7 - 2)

図6 - 7 - 2 時系列 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



性・年齢別にみると、「そうは思わない」は男性40歳代と女性50歳代がともに50%を超えて多くなっている。「そう思う」は男性70歳以上が20%を超え、男性60歳代が20%近くと多くなっている。

(図6-7-3)

図6-7-3 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

